

履歴書

(2024年10月10日)



氏名 橋野 知子 (通称) 大塚 知子 (戸籍名)
HASHINO, Tomoko OTSUKA, Tomoko

生年月日 1968年3月13日

勤務先 〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町 2-1
神戸大学大学院経済学研究科・歴史分析講座
電話：078-803-6824 (研究室直通)
E-mail: hashino@econ.kobe-u.ac.jp

学 歴

1986年4月 津田塾大学学芸学部国際関係学科 入学
1990年3月 同 上 卒業 (文学士)
1990年4月 国際基督教大学大学院行政学研究科修士課程 入学
1992年3月 同 上 修了 (行政学修士)
1992年4月 一橋大学大学院経済学研究科博士前期課程 入学
1994年3月 同 上 修了 (経済学修士)
1994年4月 同大学院同研究科博士後期課程 入学
1998年3月 同 上 単位修得退学
2002年9月 一橋大学より博士号 (経済学) 取得

職 歴

1998年4月～2000年3月 東京都立大学経済学部助手

2000年4月～2004年3月 駒澤大学経済学部専任講師
 2004年4月～2007年3月 神戸大学大学院経済学研究科助教授
 2007年4月～2013年9月 神戸大学大学院経済学研究科准教授
 2013年10月～ 神戸大学大学院経済学研究科教授（現在に至る）
 2007年4月～07年7月 Australian Graduate School of Management, University of New South Wales, 客員研究員（文部科学省・海外先進研究実践支援による派遣）
 2011年7月～2012年3月 Department of History, George Washington University 客員研究員
 2011年10月～11年12月 Department of Economic History, London School of Economics and Political Science, 客員研究員
 2016年9月～2017年1月 Freeman Spogli Institute, Stanford University, 客員研究員
 2018年11月 Foundation France-Japon de l'EHESS, 客員研究員
 2019年4月～19年6月 School of Economics, University of Cape Town, 客員研究員
 2019年4月～2024年3月 アジア成長研究所, 客員教授
 2020年2月 LARHRA, Université Lumière Lyon 2, 客員研究員（ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）事業・国際人事交流プログラムによる派遣）
 2023年6月～ セーレン株式会社・社外取締役（現在に至る）

専門分野

近現代日本経済史

近代日本の経済発展

比較産地発展論（繊維産業を中心とした産業集積の形成・発展史）

経済発展と教育

シルクの世界経済史

これまでに担当した科目

1. 駒澤大学（2000年～2004年）

日本経済史（専門科目）、経済学概説（基礎科目）、外書講読、学部ゼミ（2～4年生ならびに夜間生）、以上学部生のみ

2. 神戸大学（2004年～現在に至る）

（1）学部生

経済史（必修科目）、近現代日本経済史（専門科目）、経済社会の発展（教養科目）、初年度セミナー（1年生前期）、基礎演習（1年生前期）、演習（3-4年生）

(2) 大学院

日本経済史、産業史、日本の経済発展、Comparative Economic History（英語科目）、Economic History of Modern Japan（英語科目）、特殊演習（博士論文、修士論文の指導）

3. その他（非常勤講師）

(1) 法政大学経営学部（2003年度前期）

日本経済論（学部生）

(2) 津田塾大学学芸学部（2003年度）

2年セミナー（国際関係学科）

(3) 駒澤大学（2004年度）

日本経済史（学部生）、演習（3-4年）

(4) ルーバン・カトリック大学（2010年2月、神戸大学からの派遣、ベルギー）

日本の経済発展

(5) トリーア大学（2019年6-7月、エラスムス・プログラムによる派遣、ドイツ）

日本の経済発展

(6) 政策研究大学院大学（2024年10-11月）

Economic Development of Japan

所属学会

社会経済史学会（常任理事）

企業家研究フォーラム（理事）

経営史学会

政治経済学・経済史学会

日本経済思想史学会

社会的活動・貢献

鴻池奨学財団奨学生選考委員（～2021年5月）

兵庫労働審議会委員（～2021年9月）

神鋼記念病院倫理委員（2014年4月～）

鴻池奨学財団評議員（2021年6月～）

神戸新聞夕刊・経済コメンテーター（2022年4月～2023年3月）

神戸新聞・「読者と報道委員会」委員（2022年10月～）

「J-InnovaTech ユリイカの向こうへ：日本の第一産業化プロジェクト」
（ヨーロッパ研究評議会・スターティンググラント助成研究）諮問委員
（2022年11月～）

資格

1990年3月 中学（一級）・高校（二級）外国語（英語）教員免許（東京都教育委員会）

研究業績

1. 著書

- (1) 『経済発展と産地・市場・制度—明治期絹織物業の進化とダイナミズム』、ミネルヴァ書房、2007年2月。
- (2) 『MBAのための日本経営史』、有斐閣、2007年5月（鈴木良隆・白鳥圭志氏と共著）。
- (3) *Industrial Districts in History and the Developing World* (2016, Singapore: Springer, edited with Keijiro Otsuka).
- (4) *A Global History of Silk: Trade and Production from the 16th to the Mid-20th Century* (2024, Switzerland: Springer, edited with Pierre Vernus and Manuela Martini)

2. 翻訳書

- (1) 南亮進他著『所得不平等の政治経済学』、東洋経済新報社、2000年11月（牧野文夫・橋野篤氏と共訳、第2、4、6章担当）。
- (2) ジャネット・ハンター著『日本の工業化と女性労働—戦前期の繊維産業』、

有斐閣、2008年6月（阿部武司・谷本雅之・中林真幸・榎一江氏と共訳、第1-3章担当）。

3. 論文（日本語）

- (1) 「力織機化＝工場化か－1910年代桐生織物業における生産組織と技術選択」、『社会経済史学』第63巻第4号、1997年11月、pp.443-463（査読有）。
- (2) 「戦前日本における織物業の発展と工業学校－染織関連学科卒業生の進路動向とその特徴」、『経済と経済学』第88号、1998年12月、pp.47-63。
- (3) 「戦後日本の経済発展と工業高校への進学」、『経済と経済学』第90号、1999年1月（村上直樹氏と共著）、pp.89-105。
- (4) 「産業構造の変化と工業高校－高度成長期における東京都の事例」、『経済と経済学』第90号、1999年12月、pp.1-17（村上直樹氏と共著）。
- (5) 「織物業における明治期「粗製濫造」問題の実態－技術の視点から」、『社会経済史学』第65巻5号、2000年1月、pp.545-564（査読有）。
- (6) 「近代日本における産業構造変化と教育システムの相互作用」、青木昌彦他編『大学改革－課題と争点』、東洋経済新報社、2001年2月、pp.3-30。
- (7) 「染織学校から工業学校へ－学校機能の変容と地域産業」、望田幸男・広田照幸編『実業世界の教育社会史』、昭和堂、2004年11月、pp.218-241。
- (8) 「問屋制から工場制へ－戦前期日本の織物業」、岡崎哲二編『生産組織の経済史』、東京大学出版会、2005年9月、pp.33-74。
- (9) 「明治期福井県における輸出向絹織物業の勃興と成長－「工場」生産の持った意味」、『経済志林』第73巻第4号（尾高煌之助教授退職記念論文集「解析的経済史への招待」）、2006年3月、pp.277-284。
- (10) 「制度的工業教育の歴史的役割－明治期の高等工業学校・工業学校・農商務省と織物業」、『国民経済雑誌』第195巻第2号、2007年2月、pp.115-127。
- (11) 「明治期における輸出産業の成長と地域－越前羽二重生産・流通におけ

- る「社」の機能」、『経済研究』（大東文化大学）第20号、2007年3月、pp. 13-21。
- (12) 「競争と共存—1920年代日本の化学染料工業の進化と展開」、『国民経済雑誌』第198巻第5号、2008年11月、pp. 17-28。
- (13) 「日本の繊維産業と産業教育—実学の「伝統」と試み」、『国民経済雑誌』第202巻第3号、2010年9月、pp. 99-113。
- (14) 「実業教育の使命と実態」、佐々木聡・中林真幸編『講座日本経営史3—組織と戦略の時代：1914-1931』、ミネルヴァ書房、2010年9月、pp. 199-211。
- (15) 「経済史」、神戸大学経済経営学会編『ハンドブック経済学』、2011年3月、pp. 59-62（天野雅敏、重富公正、浦長瀬隆氏と共著）。
- (16) 「近代福井県における輸出向絹織物業の急成長と地理的拡大」、『国民経済雑誌』第206巻第2号、2012年8月、pp. 77-100。
- (17) 「近代福井における精練業の発展と織物業—産地・市場・政府—」、『国民経済雑誌』第207巻第1号、2013年1月、pp. 81-92。
- (18) 「羽二重生産がもたらした希望—繊維王国福井の形成と発展」、東大社研・玄田有史編『希望学あしたのむこうに』、東京大学出版会、2013年7月、pp. 145-156。
- (19) 「繊維産業の成長とともに（1889～1971年）」、セーレン株式会社編『セーレン経営史—希望の共有をめざして』第1章、セーレン株式会社、2015年3月、pp. 24-66。
- (20) 「桐生織物業の近代化—新技術の導入をめぐる」、『桐生史苑』第54号、2015年3月、pp. 3-14。
- (21) 「日本経済史」、神戸大学経済経営学会編『ハンドブック経済学』、2016年3月、pp. 76-87。
- (22) 「産地京都の300年—明治維新から22世紀まで」、『経営史学』第51巻第1号、2016年6月、pp. 53-71（査読有、山本千映、高槻泰郎氏と共著）。
- (23) 「名門企業の形成と「発展」—福井県精練加工からセーレンへ」、『企

- 業家研究』第13巻号、2016年7月、pp. 26-31（査読有）。
- (24) 「セーレンの経営革命・川田達男 一繊維産業「非常識」への挑戦一」、井奥成彦編『時代を超えた経営者たち』、日本経済評論社、2017年3月、pp. 311-334（中村尚史氏と共著）。
- (25) 「産地・産業集積の発展—経済史と開発経済学の融合」、『国民経済雑誌』第214巻第2号、2016年8月、pp. 47-57。
- (26) 「比較産地発展論序説：西陣から桐生へ、さらに福井へ」、『国民経済雑誌』第219巻第1号、2019年1月、pp. 95-111。
- (27) 「技術選択と工業化—戦前期日本における繊維産業の包括的再検討」、『国民経済雑誌』第224巻第6号、2021年12月、pp. 47-70（大塚啓二郎氏と共著）。
- (28) 「『技術普及の諸条件』の再検討」、『経済志林』（牧野文夫先生退職記念号）、第89巻第2号、2022年3月、pp. 17-39（招待論文）。
- (29) 「大塚啓二郎特命教授講演記録 私の目指す開発経済学」、『国民経済雑誌』、第226巻3号、2022年9月、pp. 1-10。
- (30) 「近現代日本経済史からグローバル・エコノミック・ヒストリーへ」、『経済学の歩き方』（2023年度版）、2023年3月、pp. 103-109。
- (31) 「『飲み込まれる』経済史—経済学における経済史研究の存在意義」、大塚啓二郎他編『次世代の実証経済学』、日本評論社、2023年6月、pp. 213-232、pp. 239-243。

4. 論文（英語）

- (1) “Tradition and Interaction: Research Trends in Modern Japanese Industrial History.” *Australian Economic History Review* 44(3), November 2004, pp. 241-258 (with Osamu Saito). （査読有）
- (2) “The Rise of the Power-loom Factory in the Traditional Silk-weaving District.” Tetsuji Okazaki ed. *Production Organizations in Japanese Economic Development*, London: Routledge, January 2007, pp. 14-38.
- (3) “The Rise of the Japanese Synthetic Dye Industry during the First World War.” *Kobe*

University Economic Review 53, February 2008, pp. 35-55.

- (4) “Industrial District, the Rise and Growth of Small and Medium-sized Enterprises: Mechanical Engineering in the Higashi-Mikawa District.” *Japanese Research in Business History* 2007 (volume24), 2008, pp. 53-75. (査読有)
- (5) “The Importance of Consular Reports for the Export Growth of Japanese Silk Fabric Habutae in the Late 19th Century.” Jorg Ulbert and Lukian Prijac eds., *Die Welt der Konsulate im 19. Jh. / Consuls et Services Consulaires au XIXe siecle / Consulship in the 19th Century*, Humburg: Dobu, April 2010, pp. 485-501.
- (6) “Institutionalising Technical Education: The Case of Weaving Districts in Meiji Japan.” *Australian Economic History Review* 52 (1), March 2012, pp. 25-42. (査読有)
- (7) “From the Non-European Tradition to a Variation of Japanese Model of Competitiveness: The Japanese Modern Paper Industry since the 1870s.” J.A. Lamberg et al. eds., *The Evolution of Global Paper Industry 1800-2050*, Amsterdam: Springer, December 2012, pp. 135-166. (with Takafumi Kurosawa)
- (8) “Hand Looms, Power Looms, and Changing Production Organizations: The Case of the Kiryu Weaving District in the Early 20th Century Japan.” *Economic History Review* 66(3), 2013, pp. 785-804 (with Keijiro Otsuka). (査読有)
- (9) “Beyond Marshallian Agglomeration Economies: The Roles of the Local Trade Association in a Meiji Japan Weaving District (1868-1912).” *Business History Review* 87, 2013, pp. 489-513 (with Takafumi Kurosawa). (査読有)
- (10) “Cluster-Based Industrial Development in Contemporary Development Countries and Modern Japanese Economic History.” *Journal of the Japanese and International Economies* 30, 2013, pp. 19-32 (with Keijiro Otsuka). (査読有)
- (11) “The Survival Strategy of the Japanese Kimono Industry.” In Pierre-Yves Donze and Rika Fujioka eds., *Global Luxury: Organizational Change and Emerging Markets since the 1970s*, Palgrave Macmillan: Singapore, 2017, pp. 257-274.
- (12) “The Rise and Fall of Industlialisation: The Case of a Silk Weaving District in Modern Japan.” *Australian Economic History Review* 60(1), 2020, pp. 46-72 (with Keijiro Otsuka). (査読有)
- (13) “Underlying Sources of Growth: First and Second Nature Geography.” In Stephen

Broadberry and Kyoji Fukao eds., *The Cambridge Economic History of the Modern World Vol. I 1700 to 1870*, Cambridge: Cambridge University Press, pp. 339-368 (with Paul Garuna-Galizia and Max-Stephan Schulze).

- (14) “‘Swallowed’ Economic History: The Significance of Economic History Research in Economics.” In Keijiro Otsuka et al. eds., *Next-Generation of Empirical Research in Economics*, Singapore: Springer, pp. 167-192.
- (15) “From Lyon to Kyoto: Technology Transfer, Inflow of Knowledge, and Modernization of a Traditional Silk-Weaving District in Japan, 1887-1929.” In Pierre Vernus, Manuela Martini and Tomoko Hashino eds., *A Global History of Silk: Trade and Production from the 16th to the Mid-20th Century*, Switzerland: Springer, pp. 229-254 (with Yukuo Murata).

5. 学会・コンファレンスでの報告等

- (1) 「明治期「粗製濫造」問題と工業学校の設立・展開—織物業の事例から」、社会経済史学会第 67 回全国大会（於・学習院大学）、1998 年 6 月。
- (2) 「明治・大正期日本における絹織物業の産地類型化—非数量データを中心として」、社会経済史学会関東部会（於・東京大学）、1999 年 1 月。
- (3) “The Development of Textile Industry Districts and the Spread of Technical Schools During the Prewar Japan: The Roles of the Graduates of Technical Schools.” the 16th Pan-Pacific Conference, Fiji, June 1999.
- (4) 「明治期絹織物業の発展と両毛産地の展開—製品・市場・技術・制度」、首都圏形成史研究会・高崎市共催シンポジウム「群馬—産業化と商人・市場・制度」（於・高崎市南公民館）、2001 年 3 月。
- (5) 「地域経済の変化と工業高校卒業生の進路」、日本教育社会学会第 71 回全国大会（於・上智大学）、2001 年 10 月。
- (6) 「明治後期～大正期の桐生織物業における雇用形態の変化—後藤織物工場にみられる力織機化と生産組織」、社会経済史学会第 71 回全国大会（於・和歌山大学）、2002 年 5 月。
- (7) *Women in Textile Business: A Comment*、パネル・ディスカッション「産業と女性、町場と女性—比較史の試み」に対するコメント（討論者）、社会経済史学会第 71 回全国大会（於・和歌山大学）、2002 年 5 月。

- (8) 「政策と戦略—東三河地域の集積形成過程の分析」、経営史学会第 38 回全国大会（於・國學院大學）、2002 年 9 月（松島茂氏との共同報告）。
- (9) 「シンポジウム:輸出工業の発展と粗製濫造」に対するコメント（討論者）、日本経済思想史研究会全国大会（於・広島修道大学）、2004 年 6 月。
- (10) 「問屋制から工場制へ—戦間期桐生産地・後藤織物における製品・技術・組織」、経営史学会関西支部会（於・神戸大学）、2004 年 9 月。
- (11) 「中林真幸『近代資本主義の組織—製糸業の発展における取引の統治と生産の構造』（東京大学出版会、2003 年）をめぐって」（討論者）、社会経済史学会近畿支部会・経営史学会関西支部会の共催部会（於・関西学院大学）、2005 年 1 月。
- (12) 「問屋制から工場制へ—戦間期の桐生織物業」、コンファレンス「市場の発展と制度の変容」（21 世紀 COE プログラム・市場経済と非市場機構との関連研究、於・東京大学）、2005 年 3 月。
- (13) 「明治期日本における制度的工業教育の「貢献」—織物産地と工業学校、高等工業学校を中心に」、社会経済史学会近畿支部会（於・神戸大学）、2005 年 4 月。
- (14) 「制度的工業教育の歴史的役割—明治期の高等工業学校と工業学校を中心に」、パネル・ディスカッション「日本の近代経済成長と教育」、社会経済史学会第 74 回全国大会（於・一橋大学）、2005 年 5 月。
- (15) パネル・ディスカッション「日本における商社史研究の現状」へのコメント（討論者）、経営史学会第 41 回全国大会（於・神戸大学）、2005 年 11 月。
- (16) “*Okamisan’s role in family business: the importance of the owner’s wife in the management strategy of the modern weaving industry.*” the 14th International Economic History Congress, University of Helsinki, Finland, August 2006.
- (17) 「近代日本の経済思想—中央と地方の観点から」、大東文化大学経済研究所主催・経済シンポジウム（於・大東文化大学）、2006 年 11 月。
- (18) 「中小企業の「成長」・分化過程と産業地域」、経営史学会第 42 回全

国大会（於・一橋大学）、2006年11月。

- (19) 「佐々木淳『アジアの工業化と日本』（晃洋書房、2006年）をめぐって」（討論者）、社会経済史学会近畿部会・経営史学会関西部会の共催部会（於・関西学院大学）、2007年1月。
- (20) “Information Strategy by Government and Response of Weaving Districts: Expansion of Silk Fabric Export from the Late 19th to 20th Century Japan.” Global History Workshop: Cross-regional Chains in Global History, Osaka University, December 2007.
- (21) 「橋野知子『経済発展と産地・市場・制度』（ミネルヴァ書房、2007年）をめぐって」（内容紹介と問題提起）、社会経済史学会近畿部会・経営史学会関西部会の共催部会（於・関西学院大学）、2008年1月。
- (22) “Competition and Cooperation for the Fashion Market: A Comparison of the Modern Development of Textile Districts in Japan and Europe.” a session at “Fashions: Business Practices in Historical Perspective.” EBHA/BHC Joint annual conference, Bocconi University, June 2009 (with Takafumi Kurosawa).
- (23) “The Development of Modern Pulp and Paper Industry in Japan from late 19C to 20C: Rapid Catch-up Process in Modernization.” the 15th International Economic History Congress, University of Utrecht, the Netherland, August 2009 (one of the organizers in this session). （日本学術振興会・国際学会等派遣事業による派遣）
- (24) 「小経営におけるワーク・ライフ・バランスの変化ー機屋のおかみさんの役割を手がかりに」、パネル・ディスカッション「歴史の中のワーク・ライフ・バランス」、社会経済史学会第79回全国大会（於・関西学院大学）、2010年6月。
- (25) “On the Historical Process of the Institutionalizing Technical Education: The Case of Weaving Districts in the Meiji Japan.” the 2010 CRMA Business History Conference, University of South Australia, July 2010.
- (26) “From the Non-European Tradition to a Variation of the Japanese Model of Competitiveness: The Modern Japanese Paper Industry in the Context of

International Comparison.” the EBHA annual conference, University of Glasgow, August 2010 (with Takafumi Kurosawa).

- (27) 「国際比較・産業間比較の中の日本製紙業史」、経営史学会第46回全国大会（於・札幌大学）、2010年10月（黒澤隆文氏との共同報告）
- (28) パネル・ディスカッション「高度成長期における「大衆化」の進展と企業経営の変容－問題提起」、経営史学会第46回全国大会（於・札幌大学）、2010年10月。
- (29) “Historical Context of Institutionalizing Technical Education: The Case of Weaving Districts in Meiji Japan.” the 30th conference of the Portuguese Economic and Social History Association, School of Economics and Management Technical University of Lisbon, November 2010.
- (30) “Comments: Competitive Advantages of Regions, Comparative Studies on Industries.” the EBHA conference, Hellenic Open University (Athens), August 2011 (discussant).
- (31) “From Smithian Growth to Schumpeterian Development: An Inquiry into the Development of the Kiryu Weaving District in the Early 20th Century Japan.” seminar at Department of Economic History, London School of Economics and Political Science, November 2011 (with Keijiro Otsuka).
- (32) “Expansion and Transformation of the Export-Oriented Silk Weaving District: The Case of Fukui in Japan from 1890 to 1919.” Osaka Workshop on Economics of Institutions and organizations, Osaka University, July 2012 (with Keijiro Otsuka).
- (33) “Expansion and Transformation of the Export-Oriented Silk Weaving District: The Case of Fukui in Japan from 1890 to 1919.” Modern and Comparative Economic History Seminar, London School of Economics and Political Science, February 2013 (with Keijiro Otsuka).
- (34) “Proposal for Comparative Study on the Rise, the Decline, and the Survival of Textile Industry in the 20th Century.” BEAT (Business in Europe and Asia in the 20th Century) Workshop, Landwirtschaftliche Rentenbank.
- (35) “Expansion and Transformation of the Export-Oriented Silk Weaving District:

The Case of Fukui in Japan from 1890 to 1919.” Modern and Comparative Economic History Seminar, London School of Economics and Political Science, February 2013 (with Keijiro Otsuka).

- (3 6) “Emergence of Luxury Market and the Survival of Japanese Traditional Kimono Weaving Industry in the Second Half of the 20th century.” at a pre-workshop for WEHC 2015 session titled ‘Global Luxury: Organizational Change and Emerging Markets in the Luxury Industry since the 1970s’, Neuchâtel University, Switzerland, November 2014.
- (3 7) “New Technology and New Marketing: The Case of Local Trade Association in Weaving Districts in Japan.” at the 17th World Economic History Congress, Kyoto, August 2015.
- (3 8) “Luxury Market and Survival: Japan's Traditional *Kimono* Weaving Industry after 1950s.” at the 17th World Economic History Congress, Kyoto, August 2015.
- (3 9) “Technology Transfer and Different Development Paths of Silk-weaving Districts in Modern Japan.” at the 17th World Economic History Congress, Kyoto, August 2015.
- (4 0) “Technology Transfer and Different Development Paths of Silk-Weaving Districts in Modern Japan.” at Harvard Workshop, Industries and Global Competition: Business beyond Borders in the Historical Perspective, Harvard University, Cambridge, November 2015.
- (4 1) “The Rise and Fall of Industrialization and Changing Labor Intensity: The Case of an Export-Oriented Silk Weaving District in Modern Japan.” at Osaka Workshop Economics of Institutions and Organizations, Osaka University, Osaka, July 2016 and July 2017.
- (4 2) “What Does Determine Success and Failure of Cluster-Based Industrial Development? ” at the conference in Ethiopian Development Research Institute (Support for Intellectual Lectures by the Prime Minister's Office), Addis Ababa, September 2016 (with Keijiro Otsuka).
- (4 3) “The Rise and Fall of Industrialization and Changing Labor Intensity: The Case of Weaving Districts in Meiji Japan.” at Japan Lunch in Shorenstein Asia-Pacific Research Center, Freeman Spogli Institute for International Studies, Stanford

University, Stanford, December 2016.

- (44) “Role of Association in Facilitating Innovation.” at the seminar in Université FHB de Cocody, Abidjan, March 2017.
- (45) “Changing Tradition in Craft System in Japanese Textile Industry: Skill Intensity, Growing Linkage, and Innovation.” at the seminar in EHESS, Paris, September 2018.
- (46) 「社会経済史研究のための『国際化』とは何か?」、社会経済史学会第82回全国大会（於・大阪大学）、2018年5月。
- (47) 「英文書籍出版による国際発信：『国産』中堅研究者たちの挑戦」、経営史学会第54回全国大会（於・京都大学）、2018年9月（藤岡里圭氏との共同報告）。
- (48) “Modernization of the Tradition: The Case of Three Silk-Weaving Districts in Japan, 1875-1930.” seminar at Asian Research Institute, Kitakyushu, September 2019.
- (49) “Lessons from History of Catching-Up Process of Development in Japan.” seminars at University of Pretoria, Pretoria, October 2019.
- (50) 「輸出羽二重と精練業」、第9回はたやフォーラム—近代福井の羽二重精練—（於・ゆめおーれ勝山）、2019年11月。
- (51) “From Lyon to Kyoto: The Modernization of Traditional Silk Weaving District in Kyoto, 1887-1929.” at seminar of LARHRA/Triangle in Université Première Lyon 2, February 2020（神戸大学・ダイバーシティ事業海外派遣プログラムによる渡仏研究）。
- (52) 「近代日本における羊毛工業研究の可能性と日本毛織」、パネル・ディスカッション「近代日本羊毛工業の形成と展開：ニッケ資料にもとづく経営史・会計史・技術史の融合的研究」、経営史学会第56回全国大会（於・同志社大学）、2020年12月。
- (53) “From Lyon to Kyoto: Modernization of Traditional Silk-Weaving District in Japan, 1887-1929.” at workshop of ‘Centuries of Cloth: Historical Approaches to the Story of Textile’ (by Economic History Society & Royal Historical Society),

January 2021.

- (5 4) “From Lyon to Kyoto: Modernization of Traditional Silk-Weaving District in Japan, 1887-1929.” 社会経済史学会第 90 回全国大会、自由論題報告（於・神戸大学）、2021 年 5 月（日本語での報告）。
- (5 5) “From Lyon to Kyoto: Modernization of Traditional Silk-Weaving District in Japan, 1887-1929.” 第 136 回・制度と組織の経済学研究会 (OEIO workshop) 2021 年 5 月（日本語での報告）。
- (5 6) “From Lyon to Kyoto: Modernization of Traditional Silk-Weaving District in Japan, 1887-1929.” Soies et soieries. Métiers, échanges et production dans une perspective euro-asiatique du XVIIe au milieu du XXe siècle (Pré-session du XIXe World Economic History Congress Organisée dans le cadre du programme ANR –TIME-US Rémunérations et usages du temps des hommes et des femmes dans le textile en France), Maison des sciences de l’homme de Lyon-Saint-Étienne-LARHRA (UMR 5190), avec la participation des laboratoires ICT (Université de Paris) et TELEMME (université d’Aix-Marseille), May 2021.
- (5 7) “Comments on Three Papers regarding ‘Clusters and Industrial Disricts.’” 2nd World Congress of Business History 2021, Nanzan University (on-line), September 2021.
- (5 8) “From Lyon to Kyoto: Modernization of Traditional Silk-Weaving District in Japan, 1887-1929.” Workshop in Economic and Business History, Osaka University, October 2021.
- (5 9) 「比較産地発展論序説—西陣から桐生へ、さらに福井へ」、専修大学社会科学研究所特別研究会、2022 年 8 月。
- (6 0) 「『飲み込まれる』経済史—経済学における経済史研究の存在意義」、『次世代の実証経済学』ワークショップ（於・神戸大学）、2022 年 10 月。
- (6 1) 「『飲み込まれる』経済史—経済学における経済史研究の存在意義」、経済史研究会（於・東京大学）、2022 年 11 月。
- (6 2) コメント—阿部武司（2022）『日本綿業史』（名古屋大学出版会）、グローバル経済史研究会・経営史学会関東部会（於・早稲田大学、オンライン）

ン参加)、2022年11月。

- (63) 「農商務省海外実業練習生に関する研究動向と課題」、 「農商務省海外実業練習生制度の総合的研究」 科研費研究会 (オンライン)、2023年3月。
- (64) 「実証的経済史研究の国際化と課題—ミクロ実証経済学から経済史を考える」 社会経済史学会第92回全国大会 (於・西南学院大学・九州大学) パネル・ディスカッション、報告およびセッション・オーガナイザー、2023年5月。
- (65) 「1910年代福井輸出絹織物産地における構造変化：工場・家内工業・技術・製品」、グローバル経済史研究会 (於・早稲田大学)、2023年7月。
- (66) 「福井産地の形成・発展・進化に関する歴史的考察—技術・製品・市場」 第28回 進化経済学会 福井大会 オータムコンファレンス (於・福井織協ビル) 報告およびパネル・ディスカッション、2023年9月。
- (67) “From Lyon to Kyoto: Technology Transfer, Inflow of Knowledge, and Modernization of a Traditional Silk-Weaving District in Japan, 1887–1929” at the workshop for the book titled *Global History of Silk*, Lyon 2 University (on-line, with Yukuo Murata), November 2023.
- (68) “From Lyon to Kyoto: Technology Transfer, Inflow of Knowledge, and Modernization of a Traditional Silk-Weaving District in Japan, 1887–1929” at the session for the book titled *Global History of Silk*, European Business History Association, Lisbon, July 2024.

6. 書評

- (1) 谷本雅之『日本における在来的経済発展と織物業—市場形成と家族経済』 (名古屋大学出版会、1998年)、 『歴史学研究』 第722号、1999年、pp. 49-52。
- (2) 中村隆英編『日本の経済発展と在来産業』 (山川出版社、1997年)、 『社会経済史学』 第65巻第3号、1999年、pp. 98-100。
- (3) 刈谷剛彦・菅山真次・石田浩編『学校・職安と労働市場—戦後新規学卒労働市場の制度化過程』 (東京大学出版会、2000年)、 『社会経済史学』 第

- 67 卷第 2 号、2001 年、pp. 103-104。
- (4) 猪木武徳・大竹文雄編『雇用政策の経済分析』(東京大学出版会、2001 年)、
『歴史と経済』第 180 号、2003 年、pp. 47-49。
- (5) 速水融編『近代移行期の人口と歴史』・『近代移行期の家族と歴史』(ミ
ネルヴァ書房、ともに 2002 年)、『歴史と経済』第 182 号、2004 年、pp.
67-69。
- (6) 田村均『ファッションの社会経済史』(日本評論社、2004 年)、『歴史と
経済』第 196 号、2007 年、pp. 71-73。
- (7) 佐々木淳『アジアの工業化と日本』(晃洋書房、2006 年)、『アジア経
済』第 49 巻第 4 号、2008 年、pp. 73-77。
- (8) 大田康博『繊維産業の盛衰と産地中小企業』(日本経済評論社、2007 年)、
『社会経済史学』第 74 巻第 6 号、2009 年、pp. 84-87。
- (9) 山崎広明・阿部武司『織物からアパレルへ—備後織物業と佐々木商店—』
(大阪大学出版会、2012 年)、『史学雑誌』第 123 巻 2 号、2014 年、pp.
259-265。
- (10) 沢井実『近代大阪の工業教育』(大阪大学出版会、2012 年)、『社会経
済史学』第 79 巻第 4 号、2014 年、pp. 569-571。
- (11) 山路直人『企業革新の研究：繊維企業の脱成熟化のプロセス』(白桃
書房、2014)、『企業家研究』第 12 号、2015 年、pp. 61-63。
- (12) ペネロピ・フランクス, ジャネット・ハンター編/中村尚史・谷本雅之監
訳『歴史のなかの消費者：日本における消費と暮らし 1850-2000』(法政
大学出版局、2016)、『経営史学』第 52 巻第 2 号、2017 年、pp. 62-65。
- (13) 大野昭彦『市場を織る：商人と契約：ラオスの農村手織物業』(京都
大学学術出版会、2017 年)、『社会経済史学』第 85 巻第 4 号、2020 年、
pp. 473-476。
- (14) 杉原薫『世界史のなかの東アジアの奇跡』(名古屋大学出版会、2020)、
『経済研究』第 73 巻第 4 号、2022 年、pp. 392-394。
- (15) 浅沼信爾・小浜裕久『幕末開港と日本の近代経済成長』(勁草書房、2021)、

『日本歴史』第 897 号、2023 年、pp. 103-105。

(16) 前田廉孝『塩と帝国—近代日本の市場・専売・植民地』(名古屋大学出版会、2022)、『企業家研究』第 22 号、2023 年、pp. 69-72。

(17) 谷本雅之『在来的発展と大都市—20 世紀日本における中小経営の展開—』(名古屋大学出版会、2024)、『日本労働研究雑誌』第 771 号、2024 年、pp. 101-103。

7. ディスカッション・ペーパー、報告書、事典の執筆等(日本語ならびに英語)

(1) 「大正・昭和戦前期の日本における農村男子の職業・学歴・体格・家族—福島県耶麻郡関柴村の『壮丁調査』を利用して」、一橋大学経済研究所・ディスカッション・ペーパー A-370、1999 年(斎藤修・菅山真次氏と共著)。

(2) 「インドネシア製造業センサス調査の検討ノート—長期経済統計のための基礎作業」、一橋大学経済研究所・ディスカッション・ペーパー DD99-20、2000 年(石渡茂氏と共著)。

(3) 「COE オーラル・政策研究プロジェクト 太田勇三郎(元・曙ブレーキ工業副社長)オーラルヒストリー」、政策研究院『平成 14 年度科研費補助金特別推進研究・研究成果報告書』、2002 年(尾高煌之助・梅崎修氏との共同研究)。

(4) 「COE オーラル・政策研究プロジェクト 椎名敏夫(元・日立精機参事)オーラルヒストリー」、政策研究院『平成 14 年度科研費補助金特別推進研究・研究成果報告書』、2002 年(尾高煌之助・梅崎修氏との共同研究)。

(5) 「COE オーラル・政策研究プロジェクト 内田星美(東京経済大学名誉教授)オーラルヒストリー」、政策研究院『平成 14 年度科研費補助金特別推進研究・研究成果報告書』、2002 年(尾高煌之助・梅崎修氏との共同研究)。

(6) 「COE オーラル・政策研究プロジェクト 飯田耕作(株式会社ベリタス会長)オーラルヒストリー」、政策研究院『平成 14 年度科研費補助金特別推進研究・研究成果報告書』、2003 年(尾高煌之助・梅崎修氏との共同研

究)。

- (7) 「東三河における機械工業の集積と企業成長—歯車工業を中心として」、
『産業の国際的展開と産業集積の変化に関する調査研究報告書』(中小企業庁委託/法政大学産業センター)、2003年。
- (8) 「COE オーラル・政策研究プロジェクト 宮本敏夫(元・ソニー株式会社常務取締役)オーラルヒストリー」、政策研究院『平成14年度科研費補助金特別推進研究・研究成果報告書』、2004年(尾高煌之助・梅崎修氏との共同研究)。
- (9) 「COE オーラル・政策研究プロジェクト 奥田健二(元・日本鋼管労働部職員・上智大学名誉教授)オーラルヒストリー」、政策研究院『平成14年度科研費補助金特別推進研究・研究成果報告書』、2004年(尾高煌之助・梅崎修氏との共同研究)。
- (10) 「解題:海軍兵学校第75期生3名のオーラル・ヒストリー」、政策研究院『オーラル・メソッドによる政策の基礎研究』(研究代表者・伊藤隆)、2005年。
- (11) 「地域経済史」、『経済学研究のために』第9版(神戸大学経済経営学会)、2006年。
- (12) 「高等工業学校」、「徒弟学校」、「産地システム」、日本産業技術史学会編『日本産業技術史事典』、思文閣出版、2007年。
- (13) 「中小企業の勃興・成長と産業地域」、『戦後日本における生産プロセスと産業地域』(一橋大学COEプロジェクト報告、日本におけるヒトを中核とする企業システムの形成II)、2008年。
- (14) “Beyond Marshallian Agglomeration Economies: The Roles of the Local Trade Association in a Meiji Japan Weaving District (1868-1912).” Discussion Paper Series No.1113, Graduate School of Economics, Kobe University, 2011 (with Takafumi Kurosawa).
- (15) “From Smithian Growth to Schumpeterian Development: An Inquiry into the Development of Kiryu Weaving District in the Early 20th Century Japan.” Discussion Paper Series No.1121, Graduate School of Economics, Kobe University,

2011 (with Kei Otsuka).

- (16) “Hand Looms, Power Looms, and Changing Production Organizations: The Case of the Kiryu Weaving District in the Early 20th Century Japan.” Working Paper No.157/12, London School of Economics and Political Science, 2012 (with Kei Otsuka).
- (17) “Expansion and Transformation of the Export-Oriented Silk Weaving District: The Case of Fukui in Japan from 1890 to 1919.” Discussion Paper Series No.1303, Graduate School of Economics, Kobe University, 2013 (with Keiji Otsuka).
- (18) “Luxury Market and Survival: Japan’s Traditional Kimono Weaving Industry after the 1950s.” Discussion Paper Series No.1507, Graduate School of Economics, Kobe University, 2015.
- (19) “From Lyon to Kyoto: Modernization of a Traditional Silk-Weaving District in Japan, 1887-1929.” Discussion Paper Series No. 2122, Graduate School of Economics, Kobe University, 2021.
- (20) “Selective Technology Choice, Adaptations, and Industrial Development: Lessons from Japanese Historical Experience.” Discussion Paper Series No. 2204, Graduate School of Economics, Kobe University, 2022.
- (21) 「家内工業は何をしていたかー1910年代後半福井織物産地における構造変化の一断面」、神戸大学経済学研究科、ディスカッションペーパーシリーズ No. 2213、2022年。
- (22) “Agglomeration with the Declining Marshallian Agglomeration Economies : An inquiry into the postwar development of the Nada sake brewing district in Japan.” Discussion Paper Series No. 2308, Graduate School of Economics, Kobe University, 2023 (with Yuya Aikawa and Keiji Otsuka).
- (23) “The State of Economic History in Japan.” CIGS Working Paper Series 24-012E, The Canon Institute for Global Studies, 2024 (with Tetsuji Okazaki, Yutaka Arimoto, Masaki Nakabayashi, and Yoshihiro Sakane).

8. その他エッセイ等

- (1) 「経済史へのいざない」、『経済学・経営学学習のためにー平成18年度

後期号』（神戸大学経済経営学会）、2006年。

- (2) 「桐生織物業の近代化を支えた人たち」、『日経研月報』2013年8月号、2013年8月、pp. 28-33。
- (3) 「経済史を考えよう」、『経済学・経営学学習のために』2013（後期号）、2013年10月、pp. 69-78。
- (4) 「日本の近代化と『かかあ天下』」、『トイロビジネス』（自然総研）2014年4月号、2014年4月。
- (5) 「神戸新聞を読んで」、『神戸新聞』（朝刊、2017年9月3日、10日、17日、24日。日曜版の連載）。
- (6) 「手わざが光る手工芸品の魅力と未来」、『バンカル』、2018年冬号、2018年。
- (7) 「先生と経済史と私」、『国民経済雑誌』第221巻第1号、2020年1月、PP. 85-91。
- (8) 「オンライン講義事始めー2020年度第3クォーター近現代日本経済史での経験」、『経済学・経営学学習のために』2021（前期号）、2021年4月、pp. 29-36。
- (9) 「随想」（神戸新聞夕刊一面）連載（計8回、2021年9月ー12月）。
- (10) 「オンライン学会事始めー2021年第90回社会経済史学会全国大会の経験から」（第90回社会経済史学会全国大会実行委員会報告）、『社会経済史学』第87巻第4号、pp. 120-123（高槻泰郎氏・平野恭平氏との共著）。
- (11) 「六甲台遠望」（神戸新聞夕刊二面、経済コメンテーター）連載（2022年4月より2023年3月まで、計12回）。

9. 研究助成金による研究（2000年以降のもの）

- (1) 科学研究費 基盤研究（B）「生産組織の経済史」（研究代表者・東京大学・岡崎哲二）、2000～2002年度、研究分担者
- (2) 科学研究費 若手研究（B）「近代日本の工業化過程における家族小経営の変化」、2004～2007年度、研究代表者

- (3) 21世紀COE 「知識・企業・イノベーションのダイナミクス」(研究代表者・一橋大学・伊丹敬之)、2004～2007年度、研究分担者
- (4) 科学研究費 基盤研究(B)「契約の実証分析」(研究代表者・東京大学・岡崎哲二)、2005～2008年度、研究分担者
- (5) 科学研究費 基盤研究(B)「規制の経済史—産業発展をめぐる企業と政府」(研究代表者・東京大学／一橋大学・橋川武郎)、2005～2007年度、研究分担者
- (6) 科学研究費 基盤研究(A)「近代的な経済発展における市場形成と生産組織の変化に関する歴史分析」(研究代表者・大阪大学・中林真幸)、2006～2010年度、研究分担者
- (7) 科学研究費 基盤研究(C)「日本における化学染料工業の発展とその受容過程」、2007～2009年度、研究代表者
- (8) 科学研究費 基盤研究(A)「地域の競争優位—国際比較産業史の中のヨーロッパと東アジア」(研究代表者・京都大学・黒澤隆文)、2011～2015年度、研究分担者
- (9) 科学研究費 基盤研究(C)「西陣・桐生・福井における近代技術定着過程と制度革新—比較産地制度史構築を目指して」、2013～2015年度、研究代表者
- (10) 日本証券奨学財団「伝統と革新—産業集積としての京都の構造解明に関する経済史的研究」、2016～2019年度、研究代表者
- (11) 科学研究費 基盤研究(C)「近代日本の織物業における比較産地発展論」、2017～2020年度、研究代表者
- (12) 科学研究費 基盤研究(B)「日本羊毛工業史研究の拠点形成を目指して：生産・雇用・会計制度の形成・発展過程」(研究代表者・神戸大学・平野恭平)、2018～2021年度、研究分担者
- (13) 村田学術振興財団「イノベーションと産地構造の転換に関する歴史実証研究」、2020～2022年度、研究代表者
- (14) 科学研究費 挑戦的萌芽研究「近代日本における西洋技術の『日本化』

過程」、2021～2023 年度、研究代表者

(15) 野村財団「技術・組織変化と女性労働の創出—近代西陣・桐生・福井産地における歴史から学ぶ」（「女性が輝く社会の実現」をテーマにした研究助成）、2021～2023 年度、研究代表者

(16) 日本経済研究センター「歴史から現代へ—織物産地の成熟・再生・進化から見た地方創生の比較研究」、2024 年度、研究代表者

(17) 科学研究費 基盤研究 (B) 「個票データを用いた『職業婦人』と女子実業教育の社会経済史・経営史的研究」（研究代表者・東北学院大学・菅山真次）、2024～2027 年度、研究分担者

以上、間違いございません。